

令和4年度第1回 山県市総合教育会議議事録

1 日時

令和4年9月30日（火） 午後1時30分～午後2時35分

2 場所

山県市役所3階会議室302

3 出席者

副市長 久保田 裕司

教育長 服部 和也

委員 川田 八重子

委員 堀 恵子

委員 大野 良輔

委員 千葉 純

事務局 学校教育課長 森川 勝介

生涯学習課長 藤根 勝

学校教育課課長補佐 渡瀬 和則

教育相談専門監 原 永子

4 協議事項

- (1) 学年100人時代の学校再編
- (2) 幼保小中連携による切れ目のない支援
- (3) 放課後の教育サービスの提供

5 会議の概要

別添のとおり

午後1時30分 開会

会議進行：学校教育課長	
副市長あいさつ	
副市長	<p>この総合教育会議については、市長も重要な会議と認識しておりますが、急遽、都合が悪くなり、私が代理で出席させていただきます。皆様方からいただいた御意見につきましては、市長に伝え、庁内で検討してまいりたいと思います。</p> <p>ここ2年半あまりコロナが問題となっていますが、ポジティブにとらえれば、今まで破れなかった慣例を破るチャンスとなったり、臨時交付金のおかげで事業が前倒しできたりしました。また、物価上昇対策の交付金の追加や、10月3日からの臨時国会の経済対策についても、チャンスなので必要な事業について申請するよう職員に指示してあるところです。</p> <p>今日も、お金がないからということではなく、自由に御意見いただければ、前向きに検討して参りたいと思います。</p>
2 協議事項	
<p>(1) 学年100人時代の学校再編</p> <p>(2) 幼保小中連携による切れ目のない支援</p> <p>(3) 放課後の教育サービスの提供</p>	
教育長	<協議事項(1)(2)(3)について説明>
教育相談専門監	<不登校対策について説明>
学校教育課長	協議事項(1)について御意見をお願いします。
堀委員	このシミュレーションは、まず、美山地域で始めて、うまくいったら他の地域にも取り入れるということでしょうか。
教育長	美山地域だけでなく伊自良地域でも、一部だけでも1年ぐらいやってみて、変えるべきところは変えながら進められれば良いと思っています。
大野委員	この山県方式の発想は斬新で魅力的な反面、年度の途中で通う学校が変わったりすると、自分がこの小学校の児童だという帰属意識が薄れてしまうのではないかと心配があります。教育の根幹を見つめ直して変えていくこと、それが山県市ならできると思います。小さな学校だからバス1台で移動もしやすく、チャレンジする必要はあるけ

	<p>れど、いつでも立ちどまって考える余裕を常にもってたいと思います。</p>
教育長	<p>机上の考え方ですが、例えば金曜日の午後だけは、全員いわ桜小へ戻って、校区についての調査研究や太鼓などのふるさと学習を位置付けます。</p>
千葉委員	<p>3年生までは週に1回合同授業だったのが、4年生からは基本的に合同授業で、週1回自分の学校に戻るといった感じになるのですね。</p>
学校教育課長	<p>もう実際に、いわ桜小の児童が、美山小へ行って体育の授業を合同でやっています。</p>
副市長	<p>保育園でも英語遊び教室を合同で行っていて、ほかの保育園の子どもと会うのを楽しみにしているような雰囲気を感じました。今の子どもたちは早く適応する気がします。</p> <p>市長も私も、市民の命に関わることでなければチャレンジ精神をもってやってほしい、小さい自治体のよさを生かして迅速に実行してほしいと職員に言っています。この発想はとてもおもしろいので、早くチャレンジしたほうがいいと思います。</p>
学校教育課長	<p>協議事項（2）について御意見をお願いします。</p>
千葉委員	<p>高富と美山のコスモスと、ピッコロ療育センター、子どもげんきほうすは、今現在、どのような連携があるのでしょうか。</p>
教育相談専門監	<p>ピッコロ療育センターとの連携は、障害者支援の子育て部会に学校が入っています。不登校児童の中にはピッコロ通所者もいるので、相互に連絡を取り合っています。子どもげんきほうすとの連携は、教育センターの特別支援担当相談員が講師となり、クラブの支援員を対象に研修を行ったことがあります。また、子育て支援課の子育て支援ネットワーク協議会にも学校教育課と生涯学習課が入っています。子育て支援課は、児童生徒の家庭も相談、支援の対象としているので、今でも情報交換、連携は取っていますが、同じ建物に総合窓口があることが重要だと思っています。</p>
大野委員	<p>幼稚園保育園の先生の視点と小中学校の先生の視点は違うと思うので、いろんな視点で考え、一つの方向性を見いだすということでは、一箇所に集めることは賛成します。ただし、子どもげんきほうすで物理的に可能なのか疑問です。</p>

学校教育課長	借りられそうな部屋の目星は付けてあります。子どもサポートセンターを開く時間は、基本的に学校もやっている時間帯なので、乳幼児の子がいる時間としかかぶらないと思っています。
大野委員	仕切りを設ければ個別対応はできるでしょうけど、孤立している不登校の子たちに新しい環境を作り出すという課題を、あの施設で解決できるのか、心配はあります。
堀委員	不登校の子どもがいつも行ける居場所があり、そこで教育もできるとなったら、素晴らしい場所ですので、ぜひやっていただきたいと思います。建物の物理的な問題で、入れない機関があると思いますが、一堂に会するような連携を整えていただけるといいと思います。
大野委員	生涯学習という視点で、少なくとも高校卒業までサポートする必要があると思いますので、小学校、中学校に加えて高校の先生も交えられるといいと思います。
教育長	個人情報とうまく整理して、その子が要支援的な因子を持っているということがわかれば、その子を不登校にしないで済む手立てがわかるかもしれない。
副市長	子どもサポートセンターを子どもげんきはうすに開設ということですが、隣の保健福祉ふれあいセンターは半分以上の空きがあるので、そこはどうでしょうか。バスターミナルや学校からは遠くなりますが、ここなら子育て支援課や福祉課もすぐ近くにあるので、ここを子育て支援のゾーンにしたいという思いがあります。
教育長	富岡小学校の教室を借りて授業をすることも考えているのですが、それ以外の条件は、保健福祉ふれあいセンターの方がいいかもしれません。
学校教育課長	協議事項（3）について御意見をお願いします。
川田委員	部活動の地域移行の話がありますが、指導者の報酬の財源はあるのでしょうか。
教育長	基本的には受益者負担ですが、それでは成り立たないので、当初は国や自治体が補助金を出すことになると思います。国からの補助金がなくなったときの財源は課題です。
川田委員	受益者負担が多いと、経済的に余裕のない家庭の子どもは、部活動を続けられないかもしれませんね。

教育長	部活動は月1千円ほどの負担がありますが、野球のクラブチームだと、月1、2万円ほどかかるようです。公教育の安価な負担を崩さないようにしなければいけないと思っています。
副市長	「ギフテッドの開花」とはどういうイメージですか。
教育長	例えば、昆虫が好きな子どもたちのために、昆虫の勉強ができるサークルがあってもいいと思います。民間に期待します。
副市長	そういう能力は伸ばしてあげたいと強く思います。民間だと、野球のクラブチームのように会費がかかるかもしれませんが、学習支援として補助してあげることも考えられるかもしれません。
堀委員	学校の近くにいる特技をもった人が教室を開いた場合にも補助が出れば、地域の人材の掘り起こしにもなって、おもしろいと思います。
学校教育課長	ただ今、皆様から承った御意見を参考に、今後の事業の推進を検討していきたいと思っています。

午後2時35分 閉会